



学校便り 琢磨

令和6年度 第16号 R6.12.11 三豊市立詫間小学校

栄光を讃える

敬称は略します。おめでとうございます。
表彰状は、次回の全校集会で伝達します。

【校内マラソン大会】(11/28) ①…1位 ②…2位・・・を表しています。

- 1年男子 ①大西 優諒 ②小野 友也 ③則久 珀琥 ④石井 我旺 ⑤細川 千颯 ⑥真鍋 翔
 1年女子 ①北山 千暖 ②小林桃百奈 ③保田ひまり ④田中 仁菜 ⑤山下 紗奈 ⑥大平 暖恵
 2年男子 ①高尾 征良 ②風間 大地 ③汐見 昂道 ④松井 景 ⑤亀岡 覇聖 ⑥山脇 朔
 2年女子 ①十川 華 ②犬伏瑠衣絆 ③糸 美羽 ④磯崎 咲帆 ⑤長池 実南 ⑥佐古 愛桜
 3年男子 ①藤田 眺翔 ②北山 凌久 ③江口 玖蘭 ④森 海晴 ⑤大北 和 ⑥林 風汰
 3年女子 ①十河 璃緒 ②江口くらら ③真鍋 陽菜 ④真鍋 羽菜 ⑤名越 望来 ⑥安藤れおな
 4年男子 ①林 舜二郎 ②石井 我琉 ③大谷 琉真 ④糸 星慈 ⑤宮本 琉杜 ⑥桑田 和馬
 4年女子 ①亀野 小夏 ②磯崎 日快 ③丸橋 夕珠 ④風間つばさ ⑤久原結乃愛 ⑥小林和香奈
 5年男子 ①岡崎 空雅 ②汐見 遥馬 ④安藤 唯人 ⑤三崎 凜青 ⑥資延 椿希
 ②平井 蓮志 ⑥中原 彪雅
 5年女子 ①犬伏莉々綺 ②定岡 照磨 ③藤川 紅葉 ④磯崎 唯乃 ⑤福岡 咲月 ⑥内田 愛菜
 6年男子 ①吉田 貫汰 ②片岡 洸太 ③三崎 陽登 ④川原 空澄 ⑤樽井 健 ⑥宮本 航瑠
 6年女子 ①浪越 優菜 ②池田 絢 ③本條 莉梨 ④詫間 萌奈 ⑤大平 惺久 ⑥長池 杏夏

【第70回青少年読書感想文香川県コンクール】

最優秀 4年 桑田 和馬

【「家族ふれあい・あいさつ運動・わたしの夢」作品コンクール】

最優秀賞 3年 江口 玖蘭

楽しかった修学旅行

12月5(木)～6日(金)。6年生は、奈良、京都、大阪方面に1泊2日の修学旅行に行ってきました。全員が参加でき、体調不良・けがをした人0人。大きなトラブル0件。おまけに、奈良・京都の紅葉は、ちょうど見頃でした。

小学校生活最大の行事である修学旅行。お土産いっぱい、思い出いっぱいの旅になりました。修学旅行の様子は、ホームページにも公開していますので、ぜひご覧ください。



私の勤務した学校（ではないけど） その5

(香川県教育センター研修企画課 平成19年4月～平成22年3月)

教職経験21年が終わった平成19年4月。私の教員人生に、大きな転機が訪れました。

高松市西宝町にあった（現在は高松市郷東町）「香川県教育センター研修企画課（現在は教職員研修課）」の主任指導主事として附属の教員を退職（形式的にはありますが、附属学校に行く時に退職していますので、これが2回目の退職となります。）、教育行政職員として勤務することになったのです。学校の教員なのに、学校ではない場所で働く、「先生」ではなくなったわけで、毎日、子どもがいない、ネクタイにスーツ姿（学校ではジャージ姿が普通でした。申し訳ありません。）、給食なし（うどんを食べようか、お弁当を注文しようか、自分でお弁当を作って持って行こうか、パンで済まそうか…？）の、高瀬駅⇄高松駅間の電車通勤が始まったわけです。職員も、県庁の職員（教員ではない）や高等学校、中学校の教員（だった人）と一緒に仕事をすることになりました。仕事の内容は、ごく簡単に言えば「教職員の研修を企画し運営する」ということです。最初の担当が「学校栄養職員（栄養教諭）の研修」でした。もちろん給食をいただいたことはありますが、作った経験はありませんので、栄養士の研修を私が指導するわけではありません。教育委員会の保健体育課に栄養教諭の先生みたいな指導主事がありますので、その方が指導するわけです。私の仕事は、その研修の枠組みを組んだり、具体的な研修の計画を立てたり、関係の学校や部署との調整をしたりするいわゆる事務仕事を中心でした。

初任者（初めて学校の先生になった方）のいる学校に行き行って授業についてアドバイスしたりすることもありますが、ほとんどは課の中で上司の監視の下で（見守られながら）の仕事や会議が多かったのです。学校の教員が、いかに事務仕事が苦手なのかということを実感させられた3年間だったように思います。何より、子どもが好きで、学級担任をしたい、毎日、子どもと一緒に笑ったり泣いたりしたいと思い教員になったのですから、寂しくて仕方ありませんでした。そして、モチベーションというか、活気というか、どんどん日増しに下がっていくのを実感していました。一日も早く、学校現場に帰りたいと、転勤した4月頃は毎日思っていました。

一番とまどったのは、上司の印鑑（グループリーダー→課長→総務課長→次長→所長）が並ばないと、文書（手紙）一つ出すことができないという世界でした。現在は、電子決済というのが広がっていますが、当時は、起案書を持って回っていましたので、まるで「スタンプラリー」のようでした。

この教育行政での仕事は、その時は、何の役に立つのかなと思っていましたが、学校という組織は、学校だけで成立しているわけではないことを学ぶことになりました。

また、この3年間、実は、学校の教員ではないということで、娘が通っていた三豊市立勝間小学校のPTAの副会長、会長をさせていただく機会もいただきました。もちろん、自ら進んでPTA役員を引き受けたわけではなく、結局は、PTA役員をしていない人だけの投票で選ばれ、「たまたま学校現場を離れていたのも、他の学校関係者じゃないのをお願いしようか。（当時の勝間小PTA会長談）」という経緯があったわけです。これも、自分で求めたものではありませんが、その後、管理職となっていくことになる私にとってはとても貴重な経験となりました。

この3年間の経験は、私の「全ての経験は、それが、悔しいこと、悲しいこと、苦しいことであっても何一つ無駄なことではない。無駄にしないためには、その経験を生かして未来を変えることだ。そうすれば、過去の苦い思い出も価値ある経験に変わっていく。」という考えを導くことになるのです。

この3年間の勤務の後、三豊市の学校に新採の教頭として、転勤（形式的には新規採用）することになります。それが、平成22年4月。その学校は、ここ、三豊市立詫間小学校だったので、